

とっりの未来を切り拓く、思いやりのエシカル消費

若者への教育

イベント開催

鳥取県消費生活センター

所在地：鳥取県米子市末広町294(米子コンベンションセンター4階)

担当課：生活環境部くらしの安心局消費生活センター

○事業・活動の概要

鳥取県では、平成27年に平井知事が消費者庁「倫理的消費」調査研究会の委員となったことがきっかけとなり、消費生活センターを中心にエシカル消費を推進している。

これまで、新聞やテレビCM等メディアでの広報から始まり、有機・無農薬商品、障がい者が携わる商品などの産品市の「エシカル・マルシェ」や、夏休みを利用して小学生がエシカル消費を学ぶ「子どもエシカル・ラボ」の開催、「とっとり消費者大学公開講座」など様々な取組を実施してきた。

○若年層への普及・啓発に注力

柔軟な思考を持つ幼い時期からエシカル消費になじんでもらいたいという考えや、子供から親や家族への波及を意図して若年層への普及・啓発に注力している。

平成28年には「エシカル消費」に関する小・中学生向け消費者教育用教材を作成した。教材は、教員が授業で活用できるよう、学習指導書のほか、デモンストレーション授業の様子を撮影したDVDやパンフレット等をセットにして、鳥取県内の全小中学校に送付し、各地区の校長会や関係教科部会等で説明しながら、各校での教材活用に向けて周知活動を行った。教材の活用状況については、アンケート調査を基に検証するとともに、継続的にフォローすることとしている。

平成29年には、小学生を対象に、農産物の収穫体験や乳牛の餌やり体験などを通じて、普段見聞きすることのない、食べ物の供給過程などを知ること、エシカル消費について学ぶ体験型プログラムを実施した。



○事業を行う上での課題、工夫している点

「エシカル」という言葉がカバーする範囲が広い、具体的な理解がしにくく、即座の理解に至らないことが多いと、担当者は感じている。また、「エシカル消費」は、既に定着している「エコ」や「地産地消」という概念を含むものであり、それらと一部重複するため混同されたり、高齢層を中心に、初めて聞くカタカナ言葉に抵抗を持たれたりする場合もある。こうしたことから、できるだけ具体例を交えたり、場面に応じて「思いやり消費」と言葉を言い換えたりと、工夫して説明するよう心掛けている。

また、平成29年に詩人の谷川俊太郎氏から提供を受けたお金の使い方にまつわる詩に地元の大学生が曲を付けた鳥取県オリジナルのエシカルソングが完成しており、こうした媒体も活用しながら効果的な啓発をしていく。

「お金名人」 谷川俊太郎

円元ドルにフランにポンド
きれいなものも美味しいものも
便利なものも遊べるものも
何でも買えるお金だけれど
時にお金は悪いことする
ヒトを傷つけ地球をいじめる

円元ドルにフランにポンド
どこから来たのどこへ行くの
お金が迷子にならないように
お金の行方よく見守って
お金の力よく考えて
お金名人目指して生きる

○今後の活動について

消費生活センターと教育機関との連携を引き続き図っていくとともに、エシカルソングを活用した小学生向けのエシカル消費啓発DVD作成を検討している。

そのほか、エシカル消費を理解した消費者が、消費行動として「エシカル消費」を実践する環境を整えるため、スーパーマーケット等でエシカル消費につながる商品の紹介を行うなど、事業者と協力した活動も継続して行っていくこととしている。

身近にある素晴らしい環境に気付き、共に生きていくことに自信と誇りを持つことが地方創生であり、それを消費の面から「思いやりの心」で支える形が鳥取県の考えるエシカル消費である。人と未来と社会を思いやるエシカル消費により、地域の元気づくりを目指している。

公表日：平成30年6月27日

取材：平成29年10月「エシカル・ラボ in とっとり」にて

外部リンク：<http://www.pref.tottori.lg.jp/255487.htm>

